



無病息災を祈って点火（広崎地区のどんどや）



益城町

議会だより

清水

せい

すい

平成 23 年(2011) 12 月定例議会 No.46

癒しの香りと色の花 ろうばい 蠟梅



学校自慢 広安西小学校

P16

組合議会からの報告
12月議会の賛否表

P15

常任委員会レポート

P12~P13

町政を問う
白熱の一般質問9名が

P3~P11

●公園整備に9,600万円積立
●副町長に古閑森一美氏

平成23年度一般会計
補正予算など審議

P2

一般質問



江越 信保議員

遠隔地の自治体と姉妹都市を結び、災害時の相互支援や都市間交流を図ってはどうか

締結による諸問題を総合的に判断しながら前向きに検討する

被災者支援システムの取り組み状況は

導入に関する調査は終わった。他の災害対策も含め積極的に取り組む

江越 今回の東日本大震災をきっかけに、災害情報の発信機能の確保が重要なテーマになった。役所が甚大な被害を被った際、ホームページの更新、サーバーも使用不能になる可能性があり、非常時に住民への情報発信手段が絶えることを防ぐ手段として、遠隔地の自治体にホームページを代理掲載してもらう仕組みがある。今回の3・11大震災においては、発信直後から通信回線の損傷、アクセス急増などの影響で閲覧ができない状況が続いた。

被災地が広域にわたると近隣の市町村ではお互いを助け合える状況ではなく、的確な情報発信は困難である。今回宮城県大崎市の場合、全国で心配している方々からの問い合わせが姉妹都市である北海道当別町に一日3万件もあったという。

当町でも遠隔地の自治体と姉妹都市を締結し、災害時のみならず、平素から交流を重ね、文化や特産物、人の交流を図り、双方の発展につなげてはどうか。

都市間交流はホームページの代理掲載に威力発揮



都市間交流による文化や物産展などのイベント開催 (資料写真より)

町長 本町においても8月30日大阪市豊中市から訪問を受けた。豊中市も大阪伊丹空港があり、空港で結ぶ都市間交流というところで、空港が所在する自治体同士の意見交換を行った。

豊中市長から友好都市提携の提案があり、現在検討中である。災害対策や都市間の文化交流、友好提携など新たな勉強をする機会が得られることで大変重要であると考え、交流の内容等を含めて今後しっかりと検討していきたい。

場合でも、被災者の支援、復旧が迅速に行えることから総務省も導入を進めている。

住民基本台帳を基に被災者台帳を作成、被災状況を入力することで、罹災証明の発行から支援金、義援金の交付、援助物資の管理が一元的に行えるなど、円滑な行政サービスの提供が可能になるシステムである。

本庁舎は耐震検査に適合していないと聞く。なおさらながら、町民の大事な生命と財産を守る観点から早急な導入を提案する。

江越 被災者支援システム

町長 被災者支援システムは、被災者に対する行政のすばやい対応は不可欠である。家屋の被害、避難先、犠牲者の有無、口座番号、罹災証明の発行などを一元管理し、氏名を入力すれば即座に被災情報がかかるという画期的なシステムである。

導入に関する調査は終了したが、今後、具体的にどのような形で行うか検討していく。

役場庁舎の耐震性など優先順位が残っており、更に具体的に検討して取り組みたい。



罹災証明の発行手続きをする罹災者ら (宮古市提供)

臨時議会 (7・11月)

7月 農業委員議会推薦は野田正徳氏に
平成23年7月に開かれた臨時議会において、野田正徳氏を農業委員に推薦することに、全会一致で決定した。

尚、裁決にあたって、議会推薦は女性の農業委員にすべきだとして、5名の議員が棄権した。

その他、益城町税条例の一部改正について審議した。

11月 人事院勧告に準じて町職員給与の改定
人事院勧告及び熊本県人事委員会が出した、職員の給与等に関する報告及び勧告に準じて、町職員の給与改定を行う条例の改正を承認した。

改正は給与の引き下げが主な内容である。

また同時に町長、副町長、教育長などの特別職ならびに議員も引き下げを行った。

益城町一般会計補正予算 交付税が3億5千万の増額 基金繰入金を返還



ご意見番

平成23年度第4回定例議会が12月13日から8日間の日程で開催され、一般会計補正予算など8議案と副町長の選任同意及び人権擁護委員の推薦などを審議した。

国民健康保険で2億4,000万円の基金繰入となっているが、基金残高はどれだけあるのか、また今後の見通しについて伺いたい。

平成23年度末の国民健康保険財政調整基金残高は約9,034万円となる。

平成21年度時点で、約4億8,475万円あった財政調整基金は、平成24年度にはすべてなくなる見込みである。

今後は、医療費を押し上げて原因を究明し、生活習慣病予防のための各種健診事業や健康づくり事業など、医療費を削減する施策を推進する。

さらに全嘱託区を巡り、医療費分析の結果、

津森処理区の下寺中灰塚地区に予定していた、約1,500メートルの下水道管建設工事を減らすことになる。

公共下水道国庫補助金の減額に伴い、工事請負費が1億2,306万円の減額となっているが、どの地区の工事を減らすのか。

果、国保財政の状況、健康づくり事業などについて説明し、医療費適正化の啓発に取り組んで行く。

公園整備基金積立金として9,600万円が計上されているが、これは飯田山、潮井水源の公園整備だけに使うのか。

飯田山、潮井水源の公園整備に使うものである。

副町長に古閑森一美氏を選任

議会最終日に平成23年9月より不在だった副町長に古閑森一美氏の選任同意が提案され、賛成多数で選任に同意することを決定した。

副町長には県職OBとか県からの出向は考えなかつたのか。また県議、教育長が飯野で副町長も飯野ということになるが、地域的バランスはどう考えるのか。

県と町とを結ぶパイプ役としての必要性は重要である。私(町長)も個人的に、県との人脈は持つており、今年4月に誕生した地元の県会議員さんと、その役目を果たしているものと確信している。

また地域的なバランスは当然考える要素の一つであるが、今回は人間の能力や適材適所の考えを重視した選任を行ったものである。

副町長を置けば人件費が必要となる。副町長を置かずに頑張る気はないか。

経費の問題以上に副町長は絶対必要であり、必ずやその能力において報酬以上の仕事ができるものと思っている。

4名が討論
反対2賛成2

県職OB若しくは、県からの出向にすべきだ。また副町長の人件費を福祉にまわしてはなどの理由から、稲田忠則議員、甲斐康之議員が反対討論を行った。

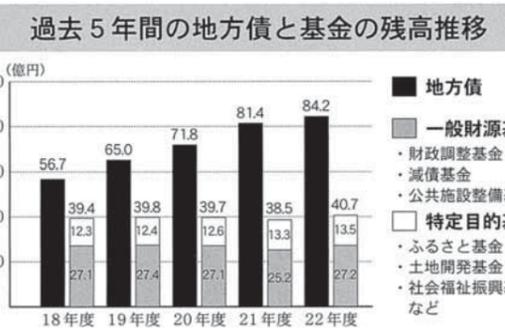
尚、賛成討論は竹上公也議員、宮崎金次議員が行った。



宮崎 金次議員

町の財政について

宮崎 今年度の町債（借金）は、年々増加して約86億円の見込みとなっており、本年度の一般会計の総額99億円と比べても、町民も心配する額となっている。



町長の推進している「日本一住みやすい町づくり」を短期間で終わらせないためには、税金や国からの交付金の増加が期待できない現状では、歳出を抑えて町の借金を増やさないことが当面最も必要ではないのか。

町債（借金）を増やさないために歳出の制御を 今後も財政の悪化を招かないように努める

6月議会以降の防災計画及び訓練の進捗状況は 町で行える事から前へ進める

町長 町債の残高については、平成16年頃から検討された陸上競技場、交流情報センター、図書館、地域再生道路テクノ工業団地の道路、中央小学校の建て替え等があり、平成22年度末で84億円と増加した。

町長 町債の残高については、平成16年頃から検討された陸上競技場、交流情報センター、図書館、地域再生道路テクノ工業団地の道路、中央小学校の建て替え等があり、平成22年度末で84億円と増加した。

町の危機管理体制について

宮崎 6月議会での一般質問から6ヶ月が経過したが、町の防災態勢、特に防災計画の整備状況、防災訓練の準備及び実施状況、防災に対する諸準備のうち、備蓄等についてどこまで進捗しているのか。



布田川・日奈久断層が予想される地域

町長 熊本県でも東日本大震災を教訓にして、防災計画の見直しに向け検討を実施中である。益城町でも県と意見交換をしながら地域防災計画を見直す。本年度末をめぐりに地域防災マップを作成、来年避難所への案内標識等を設置予定である。

部長に災害対策本部を設置し対処することになっている。なお、平成22年5月に宮崎県で発生した口蹄疫の際には、県地域振興局及び家畜保健衛生士と密接な連携を図り、直ちに町災害対策本部を設置して、迅速に予防、蔓延対策を行った。



石田 秀敏議員

あんま、針、きゅうの補助額の引き上げを見直しの時期にきている、検討したい

九州中央道の防音対策を 問題があれば関係当局と協議する

高齢者の健康増進について

町長 町ではその一環として、益城町あんま、はり、きゅう診療費補助金交付規則を制定し、平成元年4月1日から施工されている。その内容はご承知のとおり町内在住の40歳以上の方を対象に、治療一回につき額面700円相当の券を申請により、年間1人20枚まで町と協定した施術業者との間で利用できる。体調不良にこの制度を利用する人にとっては大変ありがたい制度で喜ばれている。

町長 平成18年度から利用数は1,200件から1,300件前後で推移している。ご指摘の通り規則制定以来、補助金額の見直しは行なっていない。他市町村がどうしているからと言う事ではなく、我が町として何が出来るかという観点に立ち考えていく。見直しの時期に来ていると思うが、十分検討して行きたい。



健康フェスタ・マッサージ

九州中央道の側道整備等

町長 この中央道は九州全体的な交通網を考えた場合の一大事業として着工されている。各地区の対策協議会、西日本高速（株）、国交省九州整備局、上益城郡整備振興局、及び町との間で、平成19年度に設計協議確認が締結され、これに基づいて整備されているが、高速道が通ったため不便を強いられるという部分もある。しかし大きな目で見れば効果は十分であると認識する。新たな問題が生じれば更に関係当局と協議しながら誠心誠意取り組んでまいりたい。



九州中央道高架橋

一般質問



稲田 忠則議員

広安西小学校の教室不足解消について、今後の取り組みは

検討委員会、学校の要望に対して、対応、対策を検討していく

広安西小学校の教室不足解消について

稲田 平成23年度の当初予算で、現校舎の北側に6教室分建設する計画で、増築費2億468万円が計上してあり、平成24年度の4月より新しい教室での勉強が始まる予定であった。しかし、県より今回の増築分が現在の校舎と一体的な施設になるため、調整池の問題が発生した。

学校施設としても、児童の出入口や給食搬入口の拡張、駐車場整備などを合わせるため、新たに1億9千万円の費用が必要になる、その後また6教室の増築が計画されている。その費用が2億円ぐらいかかり、合わせると約6億円の財源が必要になることから、6月議会後に広安西小学校教室不足解消検討委員会、9月議会後に広安西小学校分離検討委員会が、11名の委員構成で立ち上げられた。そこで検討の結果、当初の計画通り増築で行く結論になった。

しかし、今回の町の対応については考えが二転三転したところがあり、財源問題については当初からわかっていた。

事であり、計画が一年先送りになったことは、児童の教育や生活面に対して、大変マイナスになったと思う。教育長、町長の考えを伺いたい。

教育長 未来を担う子どもたちにとって、学校施設等の教育環境を整備、充実することは大変重要だと考えている。今後の見通しとしては、平成24年度に予算計上して、前期の6教室分の建設に入る予定である。第2期工事は、平成25年度4月から、6教室増築



広安西小学校全景



増築建設予定地

できるだけ進めていきたい。

最初予定していた12教室の完成年度は平成25年度末である。全体の計画の遅れはないと考えるが、前期の6教室分が一年遅れたと思っただけで、財源問題については見通しの甘さについての思慮が足りなかったと反省している。

町長 一度検討委員会に結論をいただいたが、分離校建設になると、30億円ぐらいの予算が必要であり、金額が大きいく、もう少し検討が必要であることから、ある意味では迷惑をかけるという思いであった。最終的には第2回目の検討委員会の答申を尊重させていただいた。増設校であれば6億円前後の金額で12教室の増築の見通しが立った。大変心配をかけたことには陳謝しながら理解を賜りたい。

飯田山の進捗状況と今後の計画はどうか

3年間で実施する飯田山自然公園基本計画を策定している

潮井公園の進捗状況と今後の見通しは

財政事情を考慮し、補助事業を使用して進めていきたい

飯田山開発事業の進捗状況と今後の計画について

高橋 飯田山は益城富士とも言うべき山で、民話にも残っている立派な山である。また山頂手前の常楽寺は約800年の歴史あるお寺で韓国や中国とも縁深いと聞いている。先日は旅行会社の方から、民話で有名な飯田山を名所として掲載したい、と言うお話もあったと言うことだ。

先日山頂まで登ったおり、「現在は海外からも色々な方のお見えになる」とお寺の方からお話しを伺った。このような事が益城町の発展する一つの起爆剤となれば良いと思う。そこで現在の事業の進捗状況と今後の計画について伺いたい。

町長 私ども執行部も幾度となく山頂に登った。現状は山頂の雑木の伐採も進み眺望も開けている。今後の進め方をイメージできる点まで進んでいると思う。議員が言われるように民話にてくるような有名な山であり、多くの町民の皆様方に親しまれており、また注目もされていると感じ

る。

現在の進捗状況は11月に交付金事業で山頂広場・展望施設・登山道路整備など総事業費5300万円を3年間で実施する、とした飯田山自然公園基本計画を策定している。初年度事業として山頂広場・登山道路整備の工事を発注した。今後も地域コミュニティの場、また自然・歴史の教育の場として魅力ある公園にするために、住民協議を踏まえて施設の充実や管理運用に努めていく。

高橋 道路整備・駐車場とハイキングコースはどうか。

町長 道路は一般車両の通行は規制し登山道を舗装しない方法で約450m整備する。駐車場整備については、常楽寺の対向地の道路下段に約1400㎡の用地を取得し、計画している。常楽寺までの現道については離合個所

を設置したい。

飯田山は自然公園として位置づけ、自然を可能な限り残し、手創り感のある状態に仕上げたいけば、町民の皆様方にも更に親しみをもっていただし、そして素晴らしい観光地になると思っている。現在、桜の植樹を多くの有志の方々に御尽力いただいている。色々なことを参考にさせてもらいながら、またご指導ご協力いただき心温まる公園を作っていく。

潮井公園の事業進捗状況と今後の計画の見通し

高橋 潮井公園について、事業の進捗状況と今後の計画の見通しについて伺いたい。

町長 現在、潮井水源一帯約4・5ヘクタールについて公園整備計画の策定を進めており3月までに策定完了予定である。魅力ある公園にするためには、地域住民をはじめ多くの方々の意見を集約し、反映させていくことが重要であり3回のワークショップを開催した。整備費用は財政事情を考慮して国庫補助事業を使用したいと思う。現在、県との協議・検討を含め基本計画を進めている。

一般質問



高橋津代美議員



飯田山頂上



潮井水源



甲斐 康之議員

誘致について優遇措置を明らかにし、「町主導」の協定書を結ぶべきである

甲斐 ①企業誘致にかかる協定書の内容を公開すべきではないか。

②誘致企業に対する奨励金・熊本臨空テクノパーク周辺の取り付け道路購入及び調整池の工事費用、固定資産税の優遇措置等について金額を明らかにすべきである。

③誘致企業について地下水の汚染に対して心配はないのか。

④雇用形態について正規雇用か不正規雇用か具体的に説明を求める。

大日本スクリーンの誘致について、雇用条件、地下水保全などについて、町主導の協定書を結ぶべきではないか

企業としっかりと協議を重ねていきたい

国保は社会保障として認識し、一般会計から繰り入れ国保税の引き下げをすべきではないか

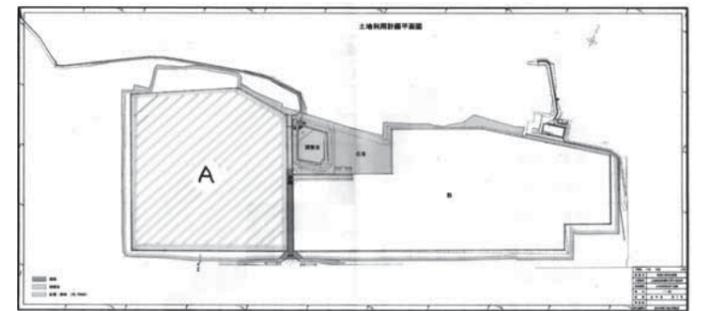
現状を憂慮し心配している。健診に力を入れていきたい

町長 協定書の内容は、工場用地として24万㎡、工場規模7万㎡、投資金額計500億円、従業員計1500名、採用は地元優先とする。操業開始は平成24年4月であったが、リーマンショックを受け一時凍結されていた、今年の6月に進出再開が発表された。奨励金は今回の土地取得額では3億円、しかし一年以内に残りの土地を取得すれば

5億円になる可能性もある。取り付け道路の工事については7億円程かかる予定である。固定資産税の優遇措置は3年間25%の減免となる。地下水汚染については、協定書で環境の保全に努めるとある。

甲斐 予定誘致企業は進出を凍結した時期に、社員の削減と一部工場の閉鎖を発表している。町が莫大な資金援助を行う以上、大企業の動向を見るにつけ、誘致について手放しでは喜べない。慎重に企業と向かい合っって安心して働ける労働条件や町の宝である地下水を守ることに、不況になっても簡単に縮小・撤退をしないように、地域経済を守っていくために「町主導」の協定書を締結することを前提に協議を進めてもらいたい。

町長 雇用については熊本県全体ではなく、できるだけ益城町から採用していただくように努力を重ねていき、企業が益城町に愛着をもつていただいで安易に撤退しないように強く



臨空テクノパーク平面図Aの部分購入地

求めている。更に発展されるような企業になるよう協議を重ねていきたい。

国保税を引き下げ町民の医療と健康の保障を

甲斐 低所得者の多い国保は事業主負担がなく、所得が少なくても資産や世帯の人数に応じかかるため、保険料が高くて滞納に拍車をかけている。加入者の所得分析や滞納者の実態を把握して、公費を

投入しても支払いのできる国保税に引き下げ医療を保障していくべきではないか。

医療費の増加を抑えるためにも、保健師の体制を強化して健診に力を入れて病気を未然に防ぎ、ジェネリック薬品の普及にも力を入れるべきである。自治体は、国保が社会保障であることを十分認識して、一般会計からの繰り入れを行い町民に医療と健康を保障して暮らしと福祉を守ることが責務である。

資格証明書の発行が他の町村に比べ抜きんで多い、資産割の全廃を含め、引き下げを検討すべきではないか。

町長 国保に関しては、現状を憂慮し心配している。新しい課を新設してこの問題に取り組んでいきたい。

医療費の増大は紛れもない現実であり、大病にからないための施策をしっかりとやっていく具体的な計画を既に練っている。健診率の高い市町村は医療費も低くなっている、健診についてしっかりと力を入れていきたい。



寺本 英孝議員

小規模多機能居宅介護施設が田原地区に決まったのはなぜか

審査を行い、総合得点より評価した

益城カントリーと地元地権者問題解決の500万円の使途内訳は

覚書に基づき支払われた

町発注工事の指名選定は公平公正か

常に公平公正に行っている

介護施設選定について

寺本 益城町浄信寺近くの田原地区に決定している小規模多機能居宅介護施設選定の理由について尋ねる。

今回は、この他、田原の旧JA津森支所の近くと、宮園の3地区が一般公募された。参考資料となる一次審査、二次審査に当てはめた場合、決定している浄信寺近く田原地区は、他の2カ所と比較した時に、立地条件として一番劣るのではないかと思うが、町長は一次審査、二次審査をどのようにとらえ決定されたのか。

また、町長の親族が所有する土地に決定されたことについて、一般常識から考えると、どうかと思うが、町長の考えを伺う。

町長 第4期高齢者保健福祉計画、介護保険事業計画に基づき、平成23年度において木山、福田、津森の木山中学校区で構成する東部圏域に一施設を整備するものである。副町長を委員長とし



小規模多機能居宅介護施設建設予定地

た職員で編成する益城町地域密着型サービス事業者選考委員会において、事業者が提出する事前協議申請書類及び、プレゼンテーションの内容により審査を行い、総合得点より評価した。

土地の決定にあたっては、誰が持っている土地だから選考してはならないとの決めごとはない。持ち主が誰かにいて、特別な意識は持っていない。町内外の選考委員が選ばれ、それを承認した。常々、町民の皆さんが納得のいく行政を心がけており、今後も努力していきたい。

益城カントリー問題

寺本 9月議会での町長答弁で、「500万円は寄付として受け取っていない、地元地権者の問題解決のために小切手で500万円を受け取り、地元関係者に渡した」とある。町長室で受け取ったのか、また行政側は何名同席し、益城カントリー側は何名の同席があり、500万円の小切手をどう地元地権者が使ったか、その後の調査はされたか。なぜなら、その後町はゴルフ場入口の道路整備に5千300万円の税金を使ったのだから、町民に説明責任が求められるのではないか。

町長 平成3年2月1日付で締結されている進和観光（株）と当時の土山区長との間で山王面池に関する覚書に基づき、山王面池の維持管理費及び地元協議費として支払われたものである。したがって、その使途について、こちらから検証する権利はないと判断している。

指名業者選定について

寺本 妙見川橋下部工事は一

般土木工事だが、なぜ指名業者が全て町外業者の指名となったか。また、熊本総合団地3号線舗装補修工事の指名に至っては、町外5社、町内1社、その町内1社は土木工事専門の会社であることが納得しがたい。

町長 この発注は、直接工事費の7割を杭打ち工事が占め、施工経験の少ない町内業者では困難と判断した。また、舗装工事については、町内業者と町外業者の組み合わせは工事規模等を勘案して選定にあたっている。町工事発注は常に公平公正に行っている。





坂田みはる議員

政治姿勢

坂田 町長の政治姿勢を問う上から、緒方副町長退任について伺う。

住永町長就任以来、2人目の副町長として緒方氏が選任されたのは、平成19年9月19日。任期4年間で勤め上げたと言えそうですが、町長の女房役とも称される立場である副町長に、次期も副町長として補佐をしてほしいと説得されなかったのか。

副町長は入札関連において、指名審査会の委員長という立場にあったが不在の今、委員長責任の所在は誰にあるのか。また不在がもたらす町政執行に不都合な点が出ていないか伺う。

さらに、益城町地域密着型サービス運営委員会に、福祉常任委員会稲田副委員長が任命されていなかったのはなぜか。

各運営委員会、検討委員会への議員委嘱の判断は、どこでどのように決められるのか、以上5点について答えをいただきたい。

町長 副町長退任は、あと4年間、自分の体力に自信がない。



惣領橋

く、再任は辞退させてほしいとの申し出があり、本人の意思を尊重して受け入れた。退任後は、行政運営に不都合が出ないよう、町政に空白が生じないように、執行部一丸となって取り組んでいる。

また、各種運営委員会、検討委員会への議員委嘱は、委員会の設置要項等に基づき、また、どういう人材を任命したら良い成果が出るかということを基準に、それぞれ適材適所、基本的に議長、副議長、委員長、副委員長を重視しながら考えていきたい。

世の中では全く疑いのない物事はなく、正しい答えが2つある。そういうことで、私は議員の皆さん方の力量、識



登校児童数も多くなりました

見というものを尊重しながら今後もやっていく。

環境問題

坂田 益城菊陽線の惣領交差点道路改修が完了して以来、交通量が増し、大型トラックの往来も増えた。その状況下、惣領橋付近は益城中、広安小への登校時歩行者、自転車通学の一回、通勤の車と大変混雑する。大型トラックの通過時や信号停車時は特に身の危険を感じるとの声もあり、惣領橋東側に、人と自転車用の歩道橋を渡すように県への働きかけは進められないか。

また、惣領1町内南から登校する十数名の児童や、中学生のため、益城中側から秋津



以前か橋が架かっていた益城中学校前

川の架ける、車を通さない人と自転車用の歩道橋の再建はできないか。さらには、学校環境を守るために、秋津川沿いの道路にスピード制限標識がそろそろ必要ではないか。

副町長退任後、町政執行において不都合は出ていないか

町政に空白が生じないように、執行部一丸となって取り組んでいる

惣領橋改良と、惣領1町内から益城中へめける歩道橋再建はできないか

県へ強く要望していき、また協議、検討する



坂口 政弘議員

児童クラブ設立については、いろいろの問題があると思うがこれからの対応は

需要面や財政面を考慮しながら、保護者会、地域と協議を進めていきたいと思っている

早期に児童クラブの設立を

坂口 津森小学校及び飯野小学校の放課後児童クラブ、設立への取り組みについて伺いたい。

先月、津森小学校で校長をはじめ保護者、町当局からも出席しての説明会が実施された。そのなかで、どうしても放課後児童クラブを設立したいの思いを聞かされた。

益城町には、広安小学校、広安西小学校、益城中央小学校、飯野小学校、津森小学校の5校があり、その中で飯野小学校と津森小学校には、まだ放課後児童クラブが設立されていない。

近年、核家族化が進み、祖父母に預けることも難しく、また共稼ぎも増えて、子供の下校時に家に誰もいないことが多く、家に一人で留守番をさせるのは、とても心配だとの意見が多くあった。

また夏休みなどの長期の休みときは、仕事場に連れて行ったり、なかには転職をしたり、正社員からパートに変えるなど、苦慮されている。そのようなことから、保護者の方々は、一日でも早い対



津森小学校

応を望んでおられる。

しかしながら設立にあたっては、いろいろな問題があると思うが、これからのように対応していくのか伺いたい。

町長 放課後児童クラブは、保護者が仕事で昼間家庭にいない児童に対し、おむね小学校3年生までの児童を対象として、専任の指導委員のもとで、放課後の児童に適切な遊びと生活の場を提供し、その健全な育成を図り、保護者の仕事と子育ての両立を支援することを目的に実施されて

いる。放課後児童クラブの運営については、保護者会において、保護者会にお願いしてあり、現在、広安小学校に2クラブ、広安西小学校に2クラブ、益城中央小学校に1クラブの計5クラブを開設、230名の児童が入所し、熊本県放課後児童クラブガイドラインに沿った運営を行っている。放課後における子どもの安全を確保しているのが現状である。

飯野小学校と津森小学校については、益城町総合計画及び益城つ子未来プラン、益城町次世代育成支援行動計画において、保護者からのニーズを把握し、必要に応じて検討を行うようにしている。

町は委託料として、児童数、開設時間などに応じて、補助基準を決定し、おやつを除く運営経費の2分の1と、補助基準額を比べ、少ない額を委託料としたクラブに支払、残りは保護者負担となる。児童数36人から45人規模で



益城中央小学校 児童クラブ

今後、需要面や財政面を考慮しながら、学校保護者会、地域としっかり協議を進めたいと思っている。

12月議会 常任委員会レポート



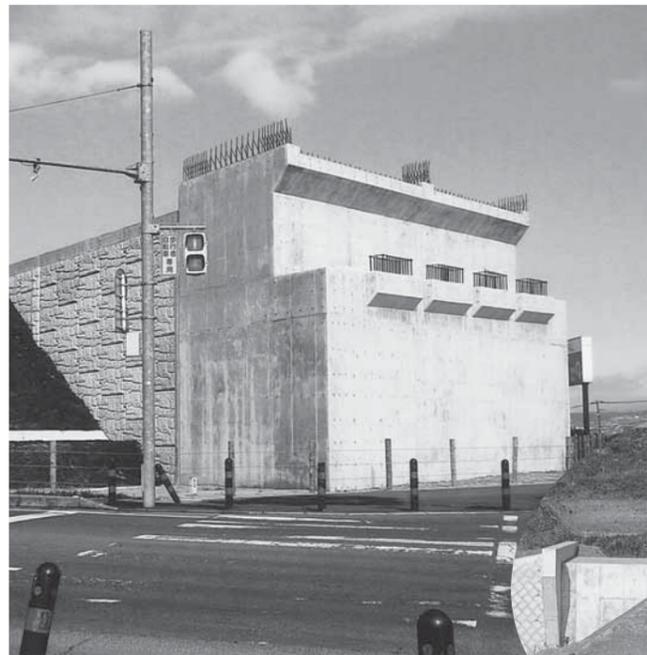
高遊原南消防組合本部



養護老人ホーム・葉山荘

九州中央道小池インターチェンジの有効利用を図れ

建設 経済



九州中央道高架橋・土山



九州中央道高架橋・小池

建設常任委員会で、付託された5議案について審査を行い、いずれも原案の通り全会一致で可決・認定した。

飯田山自然公園整備事業について、予定地を借地契約で地上権を設定したことに對し、後日、土地所有移転をスムーズに進めるためにも覚書締結の処置を講ずるよう要望があった。

現場視察では、九州自動車小池インターチェンジ建設箇所、小池地内公共下水道管渠築造工事箇所、町道小池インターチェンジ建設箇所では、担当係官から当該事業が平成

25年度完成予定との説明を受けた。

12月議会 常任委員会レポート

総務

時代に応じた組織改革へ「保険課」「健康福祉課」が変わる

総務常任委員会で、付託された2議案について審査を行い、いずれも可決した。「益城町課設置条例の一部を改正する条例の制定」については、時代に応じた組織・機構へ、さらに住民がわかりやすく利用しやすい機能的な組織に改革していくというものである。

「保険」という言葉が消えるので住民に戸惑いが生じるのではないかと、今後新たな課の設置までに周知徹底を図るとのことである。また現在「働く婦人の家」を総務課に吸収し、「男女共同参画センター」として運営することになった。現地視察については養護老人ホーム「葉山荘」の施設状況確認と、高遊原南消防組合本部を視察し、火災や救急出動の状況について説明を受けた。

福祉

国民健康保険特別会計の現状説明を受ける 医療費分析と今後の計画策定が急務



あじさい保育園建設現場



津森地区・水田湛水現場

福祉常任委員会で、付託された議案について審査を行い、いずれも原案の通り全会一致で可決した。益城町国民健康保険特別会計補正予算の中について、基金繰入金及び単年度収支について質疑があり、医療費分析と今後の計画策定に向け協議中であるとの説明を受けた。

各健診については受診率の増加を図ることや健診後の指導と併せて、医療費の増加など国民健康保険特別会計の現状を加入者へ周知し、さらに健康増進の啓発に努めていくよう意見があった。

現地視察は、あじさい保育園建設現場において、担当者から詳細な説明を受けた。建設はしっかりと耐震構造により順調に行われており、待機児童の解消が期待できる。特別養護老人ホーム「いこの里」建設予定地については、計画図面と完成予想図で説明を受けた後、場所と立地条件の確認を行った。津森校区「冬水たんぼ」については、現地の状況を確認し、この事業の必要性と目的について説明を受けた。地下水保全が順調に行われており、また地中生物による土壌改良等の研究の一環とすることもあり、研究結果によっては、益城町からまた「おいしいお米」を発信できるのではないかと期待できる。

議会の動き

- 9月
 - 1 議会運営委員会 全員協議会
 - 6 第3回益城町議会定例会(13日まで)
 - 26 高道原南消防組合議会議員研修(28日まで)
 - 28 議会広報編集特別委員会
- 10月
 - 4 郡議長定例議会
 - 9 きまにまスポーツ健康フェスタ
 - 11 議会広報編集特別委員会
 - 15 御船地区衛生施設組合議会
 - 18 全国健康福祉祭くまもと大会
 - 21 議会広報編集特別委員会
 - 26 阿蘇くまもと空港周辺四ヶ町村議会議員親善スポーツ大会
 - 26 益城、嘉島、西原環境衛生施設組合議会視察研修(28日まで)
 - 議会広報編集特別委員会
- 11月
 - 2 町村議会議員研修会
 - 4 議会広報編集特別委員会
 - 7 町議会議員研修(9日まで)
 - 11 上益城郡町議会議員研修会並びに第37回親善スポーツ大会
 - 14 御船地区衛生施設組合議会臨時会
 - 16 第55回町議会議長全国大会及び先進地視察研修(18日まで)
 - 23 青少年健全育成県民フォーラム
 - 25 第3回臨時議会
 - 29 障がい者福祉施設等商品展示・商談会
- 12月
 - 7 議会運営委員会 全員協議会
 - 13 第4回益城町議会定例会(20日まで)
 - 26 消防団年末警戒巡視(27日まで)

12月定例会 傍聴者数

1 日目 13日(火).....	4名
2 日目 14日(水).....	26名
3 日目 15日(木).....	18名
最終日 20日(火).....	7名
合計.....	55名
常任委員会 (16日・19日)	

周辺環境の保全に配慮

組合議会は、10月26日から28日までの3日間、島根県の焼却施設を視察した。

益田地区広域クリーンセンターは平成19年10月から稼働しており、施設規模としては、一日62tのごみ処理ができ、処理方式は全連続燃焼式(ストーカー炉)を採用していた。

焼却炉から発生する灰、飛灰は灰溶融炉で1200℃の高温でスラグとして有効利用しており、資源循環と最終処

分量の減量化に努めていた。排ガス処理設備としては2段階バグフィルタ方式を採用し、1段階目ではいじんやダイオキシン類を、2段階目で塩化水素や硫酸酸化物を除去するなど、環境保全に努めていた。

翌日は浜田地区広域行政組合エココクリーンセンターを視察した。この施設では、高温ガス化直接溶融炉方式を採用していた。この焼却炉の特徴としては、コークスと石灰石を副資材として投入し、酸素の吹込みにより安定した溶融処理を行い、回収されたス



浜田地区広域行政エココクリーンセンター全景

益城・嘉島・西原環境衛生施設組合 島根県の広域クリーンセンターを視察

組合議会から

いんぴちは!!

ラグとメタルは資源として再利用され、余熱の有効利用としては、ボイラーで作られた蒸気を利用して高効率(最大1800kw)の発電を行い、施設内の電力をまかなうと同時に余剰電力は売電していた。

施設の外観としては、周辺環境への調和と美観に配慮して建設されたものであった。今回の視察で最新の施設、設備の見学ができ、今後の良い参考とすることができた。

《12月議会での主な議案への賛否の状況》

事件名	結果	野田 祐士	高橋 津代美	宮崎 金次	坂本 貢	甲斐 康之	寺本 英孝	坂口 政弘	石田 秀敏	江越 信保	中村 健二	坂田 みはる	森上 祐一	稲田 忠則	荒牧 昭博	渡辺 誠男	山内 親宣	竹上 公也	福永 誠一	
平成23年度一般会計補正予算(第3号)	可	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
平成23年度国民健康保険特別会計補正予算(第3号)	可	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
平成23年度介護保険特別会計補正予算(第2号)	可	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
平成23年度公共下水道特別会計補正予算(第2号)	可	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
平成23年度農業集落排水事業特別会計補正予算(第1号)	可	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
益城町課設置条例の改正について	可	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
町道の路線変更について	可	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
町道の路線認定について	可	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
副町長の選任同意について	可	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
人権擁護委員の推薦について(2件)	可	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

○：賛成 ×：反対 棄：棄権 欠：欠席 可：可決 否：否決 裁：議長裁決

議会 研修記

笑いの中にもわかりやすく 防災基礎知識の向上を

ボランティアネットワーク「なます」を視察 (滋賀県高島市)

11月7日議会は滋賀県高島市の防災支援ボランティアネットワーク「なます」の視察研修を行った。

高島市は、琵琶湖西岸の、のどかな田園地帯の中に位置し、近年周辺の町村が合併して市となったところである。

今回研修した防災支援ボランティアネットワーク「なます」は、地元有志30〜40名で構成され、市の行政機関から離れて独自に活動を展開している団体である。

活動のきっかけは、阪神・淡路大震災に始まり、鳥取西部地震、芸予地震が連続して発生した時、「明日は我が身」との危機感を募らせた地域住民が集

まあって結成されたとのことであった。

活動のテーマと目標は「備え構え」で減災を目指す、活動の3本柱として、①防災・減災に対する啓発運動②防災ボランティアとしての力をつける③被災地への救援、支援活動や後方支援など幅広く行う。

今回防災・減災に対する啓発運動の一端を披露してもらったが、吉本新喜劇にも劣らない2人による掛け合い漫才で、面白おかしく、地震発生からその対応、行動を笑



高島市「なます」視察

いの中でわかり易く解説したり、クイズ方式で防災のための具体的な行動を習得させる。また、自作の回転巻上式の紙芝居、地震に弱い家屋の模型や腹話術を活用した、防災の基礎知識など身近で一般に親しまれる工夫がなされていた。

先の3・11大震災が念頭にあり、議員一同真剣な面持ちで臨んだ貴重な研修となった。(総務常任委員 宮崎 金次)

不交付団体の夢と現実・京 都久御山町

京都市の南に隣接する久御山町は人口16,700人、当町と比べて面積は5分の1弱、人口は約半分といった一見、小規模自治体とも言える。この町は昭和47年から普通交付税の不交付団体となっている。

久御山町内に入ってすぐ目を引くのが、未



町の駅クロスピアくみやま

また、国道の開通により交通の利便性が向上し、同時に工場や倉庫など多くの事業が進出、法人税や固定資産税の増収により、昭和47年以来、普通交付税の不交付団体となり、平成23年度の予算ベースと比較すると、益城町の町税31億4千万に對して42億8千万と当

このように自治体究極の目標ともいえるような恵まれた財政規模、住環境でありながら、驚くことに人口はほとんど変わらず、かつて減少気味とのことであった。その理由を尋ねてみると、首都圏や京阪神地域といった大都市圏では、まず鉄道が整備されその後、住宅が駅を中心に発展していくといったパターンが大部分であり、道路が整備されても人口のハンディが大きいのことであった。

傍らから見れば羨ましい程の財政力があっても、必ずしも自治体として安楽な未来は保障されていないことを改めて認識させられた。非常に意義深い視察研修であった。(建設経済常任委員長 石田 秀敏)

皆で健康を考えよう



「飯田山の公園は

「何は造つてですか？」

益城町の象徴である飯田山は昔より町民に愛され、町民の想い出深い山として今日に至っており、この山の頂上を町民の憩いの場所として公園化し、いつでも皆さんが楽しめるような広場にしたいと思っています。

頂上部分の5,000㎡を整備し、芝を貼りその周りには四季折々に楽しめる樹木の植林を行い、計画されている展望施設からは、益城町は勿論のこと、熊本市内も一望できます。

頂上では、美味しい弁当を



飯田山、山頂を望む

食べたり、絵を描いたり、写真を撮ったり楽しめよう。

新鮮な空気を腹いっぱい吸ってもらい、子供や若者、お年寄りの皆様のハイキングなどの運動に役立てていただき、皆さんで身体を鍛えて、健康増進に役立てましょう。



10

広安西小学校

お待ちせしました。今回から文化系部活動の紹介です。
創部17年になる音楽部は、現在部員38名。毎年10月に行われるRKK熊本県小学校器楽合奏コンクールに出



家庭に眠っている楽器は私たちへ



「なぜ」を解き明かす科学部員

場し、本年度も、見事銀賞に輝いた実力校です。
さて、創部以来アコーデイオン中心のリード合奏を行ってきた音楽部では、子どもたちが中学校でも続けられるようにと、谷頭先生と村上先生のご指導のもと、11月から吹奏楽への新たな挑戦となりました。
トランペット、トロンボーン、ホルン、チューバ、サクソフーン等々、子どもたちは初めて手にする楽器に、音を出す難しさや格闘しながらも、これまで以上に新鮮な楽しさに目覚めたようで、頑張る気合いにもスッチョント。

1月22日には、親子ふれ

あいコンサート、3月は文化会館での定期演奏会、そして卒業式でも新生音楽部の演奏に胸躍らせていただけることでしょうか。楽しみですね。
次に紹介するのは、理科が大好き、実験が楽しいと集まった5年生、6年生、部員24名の科学部です。
毎週、火曜、木曜の理科室は、尾方先生と梶原先生主役の子どもたちの賑やかな声が響きます。
主な活動は、子どもたちが自らやりたいと思う実験をします。強力シャボン玉作り、ブーメラン、スライム作り、また学習発表会では実験を披露、バザーでは実験セットを作って販売も行います。

「何でこうなるの」と興味をもったものが、実験過程では失敗に終わることも。見事に成功して「なぜ」が解けた時の喜びは大きく、達成感で最高の笑顔があふれます。未来の科学者誕生、夢ではないかもしれませんが、ぜひ体験してくださいね。
(取材 坂田みはる)